

知る機会や交流の場を充実させ すべての学生が誇りに思える すばらしいキャンパス作りへ

このたび、大学の副学長に新しく成瀬正春教授が就任されました。「すべての学生が『金城学院大学を選んで良かった』と思える大学にしたい」とおっしゃる成瀬副学長の学生や教員に対する思い、またキャンパス作りへの構想について、お話を伺いました。

知る機会や学びの場を より一層充実させたい

私がこれから努めさせていただく副学長という立場は学長室の機能をさらに充実させ、学長の補佐をしていくことが大切な仕事です。まずはそのことをしっかりと念頭に置き、一生懸命努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

その上で私がこれからの大学作りに思うことは、学生一人ひとりが卒業するときに「金城学院大学を選んで良かった」と思えるようなキャンパスにしていきたいということです。例えば入学してくる学生の中には、大学に入るまで「キリスト教についてよく知らなかった」という学生もいるでしょう。こうした学生にとってキリスト教の授業やクリスマス礼拝などは、少しで



もキリスト教を理解することができる大切な機会です。またキリスト教に限らず、私としては学生にこのような「知る機会」をもっとたくさん作りたいと考えています。キリスト教を通じて生き方やものの見方、考え方を社会や家庭において役立てる、そんな女性になってほしい。この先どんな問題に直面しても、キリスト教精神のもとにその問題を深く追求し、自分の考えで正しい結論を導ける女性になってほしい。そのために大学としては、さらに深く知識や教養を高めることができる場を今後も多く提供していければと思っています。

また学生の中には大学に入る目的のひとつに「資格を取る」ということを掲げている人もいるでしょう。私自身も大学時代、薬剤師や臨床検査技師などの資格を多く取りました。資格は身を助け、いざというときに心にゆとりを与えてくれるもの。金城学院大学にも資格取得の機会がたくさんありますから、めざす学生はぜひチャレンジしてほしいと思っています。そのために今後、各資格ごとの勉強会や対策講座を設けるなどの構想も考えております。

大学での勉強はわからないことを明らかにしていく、すなわち未知の部分を追求するところにおもしろさが

あります。多角度から検証し、一つの課題に対してさまざまな答えを導き出します。対して資格取得のための勉強は常に答えは1つで課題は多種多様です。中には途中で挫折してしまう学生もいるでしょう。そのような学生に対して時に厳しく、時に優しく指導し、最初の志を達成するためのサポートができるような教育体制を構築したいと思っています。

強さ、優しさを 学べる大学へ

もうひとつ願うことは、大学の教育スローガンである「強く、優しく。」の言葉どおり強く優しい女性になってほしいということです。この言葉には大変多くの意味があると私は思います。卒業し、大学で学んだことを生かして社会の中でリーダーとして働く女性はとてもすばらしく、実際に卒業生の中にはめざましい活躍をしている人がたくさんいます。ですが、たとえリーダーにならなくても縁の下から社会を支えていく、そういう強さと優しさを持った女性になってもらえたらというのが私の思いです。例えば自分の家族をしっかりと守り支えていくことも強く優しい女性でなくてはできないことでしょう。人間関係や仕事の



Profile

成瀬正春 副学長

生活環境学部 環境デザイン学科 教授
専門分野／衣服衛生学

研究課題／衣服の快適性に関する研究 衣服による皮膚障害の研究
靴の履き心地に関する研究

所属学会／日本家政学会、日本衛生学会、日本繊維製品消費科学会、日本衣服学会

進め方、あるいは子育てや生活のことなど、社会や家庭で直面する問題は学生の時の勉強とは違い、さまざまな答えや考え方があります。また学生時代に習ったことがそのまま応用できる場面もそうそうあるわけではないでしょう。そんな時、考えることを放棄して人の意見に左右されるのではなく自分で考えて判断できる強さを身につけること。そして自分の家族やまわりの人に対して大学で学んだ幅広い知識と教養を活かし、大切な人を幸せにできること。それがしっかりとできる女性こそ真の意味で強さと優しさを兼ね備えた、自立した女性だと私は思います。学生一人ひとりがそういう女性になってもらいたいと切実に思います。

そのためには「人の気持ちがわかり、人を思いやれる人間になる」ということが大切です。またそういう心を育む場として、学生同士がコミュニケーションを取れる場所をもっと大学内に増やしていけたらと考えてい

ます。最近の学生は「少人数で行動する」「授業が終わったらすぐに帰宅する」という傾向が強いように感じられます。もちろん、それが悪いということではありません。しかしせっかく大学キャンパスという豊かな環境があるので、もっと学生同士や学生と教員がコミュニケーションをとってお互いに理解を深める時間を過ごしてもらえたらと願っています。まずは挨拶をすることから始まり、徐々に距離が近づき、親しくなる。「大学に来ると多くの友達や先生と話せるから楽しい、落ち着く」と学生が思えるような、優しく温かい雰囲気になったキャンパスにしていきたいと思っています。最終的には自分自身を偽らず、いつも自分を誇れるような人として社

会に巣立ってほしい。入学から4年後、すべての学生が「金城学院大学でたくさんのが得られた、この大学でよかった」と多くの学びと輝く思い出を胸に抱いて卒業する、そんな大学にしていけることが私の理想です。

そのためにはまず私自身が考えていることを具体的に表現し、教職員や学生の皆さんからどのような評価をしていただけるのかをしっかりと把握していきたいと思っています。そしていろいろな方の意見を十分に尊重しながら物事を一つひとつ着実に進めていきたいと考えています。どうぞお気づきのことがありましたら、何でもおっしゃってください。これからよろしくお願いたします。